

「サッカーの交流を通して」

狭山市立西中学校（ソウル日本人学校より2010年3月帰国） 菊池弘至

○2007年度

12月1日にソウル市の中心部にあるアメリカ軍龍山（ヨンサン）基地内において、サッカーの交流試合が行われた。毎年行われているわけではなく、今年、基地のサッカーチームのコーチから直々に招待され、参加することとなった。U-12と言うことで、日本人学校としてはサッカーを習っている6年生の男子11名、女子2名の計13名でチームを組み、参加することとなった。そして運良く6年生の担任をしている私がコーチできることになった。日本人学校以外には、ドイツ人学校とフランス人学校が参加予定であった。



私としては急造チームであるので、しっかりと練習をして臨みたかった。しかしちょうど行事が直前にあり、休み時間等もその準備で私も子ども達も手一杯だった。その上本校はスクールバスで登下校する子ども達が半数以上を超えているため、放課後に残して練習することが出来ない現状もあり、練習を始めたのはやっと1週間前からであった。しかし練習といっても1時間や2時間行ったわけではなく、校庭の片隅で昼休みのほんの15分程度である。ただし幸いなことに、サッカー経験者ばかりであったので飲み込みが早く、私が言ったことをすぐに理解してくれた。守りと攻めの基本だけは教えることが出来た。

基地に入るにはさすがにチェックが厳しく、パスポートを持参しなければならなかった。私は日本でアメリカ軍の基地を外から見たことはあっても中に入ったことは一度もなかった。初めて入った基地の中は、施設が良く整備されていた。野球場やサッカー場が2、3箇所はあり、入り口から試合会場まで車で送ってもらう程広かった。私達の試合会場も全面最新の人工芝であった。今回フランス人学校も参加と言うことであったが、理由はよくわからないが来ていなかった。3チームで行ったオープニングセレモニーでは、基地チームのコーチの粋な計らいにより、全員が手をつないで輪になり、かけ声をかけてのスタートとなった。それぞれ国は違っても、子ども達の元気な声は一緒であった。今回参加してわかったのだが、日本人学校は6年生でサッカーを習っている子どもが多かったので、6年単独でチームを作ってしまったが、他の2チームは学校の人数も少ないせいか、低学年の子どももいた。その点でも日本人学校は戦う前から優位なのは明らかであり、実際2試合とも失点なしの大量得点で快勝であった。そんな試合状況であっても試合終了のホイッスルが鳴るまで、お互い一生懸命ボールを追っていた。最後まで全員と握手して別れた。サッカーもそうであるが、言葉は通じなくても同じ目的に向かって、夢中になって楽しむことの出来るという、スポーツのすばらしさを感じた一日であった。

○2008年度

①6月7日にフランス人学校主催の大会があり、そこに招待された。U-14でチームを作って欲しいという要請に、今年度小5の担任をしている私は、小5のみでチーム編成をした。担任をしているという理由以外には、体育館で5人制の試合を行うという話であったので、狭いコートであれば上の学年との体力差が縮まると考えたからだ。早速5年生のサッカーを習っている児童に声をかけ、男子6



名、女子1名の計7名でチームを組んだ。練習は昨年同様、スクールバスでの登下校が7割を超えているため、放課後に時間がとれず、結局昼休みの15分を使って1週間程度しか行うことができなかった。

当日、フランス人学校に行ってみてわかったのだが、体育館がないということである。ではどこで試合をしたのかというと、屋上のコートである。ともあれ、試合は開始された。相手は韓国の中学校、華僑小学校、フランス人学校の3チームであった。全チーム中、日本人学校が一番最年少であったため、試合は全敗であったが、こちらの思惑通り上の学年相手に児童達は健闘し、全試合得点することができた。

②6月14日には華僑小学校主催の大会があった。今回は小学生以下という制限があったので、上限の6年生で単独チームを組んだ。フランス人学校での試合は全敗してしまったので、今回は勝ちをねらっていくつもりでいた。しかし練習は前回同様であったので、練習不足は否めなかった。唯一の救いは今回参加してくれる8名は全員休み時間になると必ずボールを蹴っている児童達であったことである。



当日華僑小学校に行くと、本部からチーム用までテントがずらっと並んでいて、まさに大会を思わせる様相であった。開会式もあったのだが、在韓台湾大使が挨拶をしていたのにはびっくりした。今回の参加チームは、華僑小学校、フランス人学校、韓国の小学校、モンゴル人学校の4チームである。今回は7人制の試合であったが、前回より善戦した。しかし日々練習をしている学校がほとんどであるので組織力で劣り、大健闘したが3位に終わった。すごかったのは昼食である。中国料理店がそのまま出張してきて、グラウンドで料理を作り、会場にいる全員に振る舞ってくれたのだ。ソウルにもたくさん中国料理店はあるのだが、かなり韓国の味にアレンジしており、辛いものが多い。そんな理由でほとんど食べていなかったのだが、久しぶりの本物の味に、児童共々舌鼓を打った。またお土産もサッカーボールや見事な置物等たっぷりであった。

③9月27日にヨーロッパ・韓国財団主催の大会があった。この大会はU-14の11人制ということであったので、中学生にまず声をかけたのだが、3人しか集まらず、やむなく小6に声をかけ男子10人、女子3人の計13人で参加した。相手はフランス人学校、韓国の中学校、ドイツ人学校であった。今回、会場に行ってみてまず驚いたのは、ゴールがあるだけでラインが全くないということであった。会場責任者に確認してもらったが、ラインカーや石灰はどこにもないということであった。実は今回は大きな経済団体の主催であったため、アディダスがスポンサーについており、事前に足のサイズを聞かれ、サッカーシューズを全員に無料で送りつけてきたくらいなのである。それなのになぜラインが・・・という気持ちでいっぱいだった。状況はそのまま試合は始まったが、今回はフルコートでしかもU-14であったので、試合も迫力のある内容が多かった。我がチームは中学生3人を軸によく健闘したが、全員中学生でそろえてきた相手に勝つことは難しかった。さすがにスポンサーが大きいだけあって、昼食もビュッフェスタイルで振る舞ってくれた。お土産もたくさんもらった。



